

# いたばし五街道の史跡散歩

【交通】 区立郷土資料館 志村一里塚 都営地下鉄三田線西高島平下車徒歩13分  
都営地下鉄三田線志村坂上下車徒歩1分

## 【中山道・板橋宿と文化財】

板橋区の区名の由来となった「板橋宿」は、中山道の第一番目の宿駅で、大都市江戸の周縁部に位置していました。東海道の品川宿・奥州道中の千住宿・甲州道中の内藤新宿とあわせて「江戸四宿」と称され、江戸の玄関口として機能していました。宿場は上宿・中宿・平尾宿に分かれ、本陣や脇本陣が置かれました。中山道は区内を北上し、戸田の渡しを経由して埼玉県へと入ります。今回は中山道板橋宿にかかわる文化財について御紹介します。

## 【本陣・脇本陣家の文化財】

宿場は元来火事が多く、また下板橋地域は区内の中では早くから都市化したことから、江戸時代の「板橋宿」に関する歴史資料は残りにくい傾向があります。そのような中で、宿場で中心的な役割を果たしていた旧家のいくつかには、当時の賑わいを物語る貴重な文化財が伝えられており、それらは板橋区の文化財に指定されています。

①飯田博通家資料…板橋宿本陣家。江戸時代に本陣を新築・改築したときの平面図（設計図面）や古文書などに加え、参勤交代の大名が宿泊・休息するときに使う表札である「関札（榊原遠江守・堀丹波守など）」があります。

②飯田侃家資料…中宿の名主・脇本陣家。江戸期～昭和期にかけて約5600点の古文書があり、なかには和宮下向や明治天皇行幸に関する文書が含まれます。また行幸に際しての行在所・下馬・下乗の木札と下賜された「かわらけ」があります。書画類に加えて国学者による和歌の短冊も多数残されており、宿場の文化サロンの一端がうかがわれます。

③豊田家資料…平尾宿の名主・脇本陣家。関札などの宿場関係資料に加え、幕末期の当主家族のガラス写真や高島秋帆などの書画があります。特



金蒔絵唐草紋銚子



高久 隆古

筆されるのは「鉄蕉」と号していた幕末～明治期の当主豊田喜平次の煎茶道具のコレクションです。また、陶磁器類や装身具などの生活用具も充実しており、江戸期の街道を通じた広い交友関係が判明します。



ぜん茶道具

以上3家の資料は板橋区立郷土資料館が管理していますが、その他にも、板橋宿にあった乗蓮寺・智清寺・東光寺・観明寺・文殊院・遍照寺などの各寺が所蔵する仏像・金石・古文書・絵馬なども区文化財に指定されています。

## 【志村一里塚】

志村一里塚は、日本橋から数えて三番目にある一里塚です。一里塚は、慶長年間に江戸幕府の街道整備によって築かれました。「中山道分間延絵図」に描かれているように、志村一里塚は中山道往還の左右にありながら、街道に隣接せず、民家を挟んでやや奥まった場所に築造されていました。そのため、昭和10年（1935）の新中山道拡張工事に際しても、塚を移築することなく周囲に石垣を組むだけの修復をしています。明治9年（1876）の一里塚廃毀令により多くの一里塚が失われましたが、志村一里塚は壊されずに残り、大正11年（1922）に国指定史跡となりました。2基一対で残っている一里塚は全国的に少なく、都内では日光御成道に面した北区西ヶ原の一里塚とここだけです。

このように、板橋区内には五街道の一つである中山道が南北を走り、一番目の宿駅が置かれ様々な人びとが行き交ながら、歴史や文化を織りなしてきました。史跡散歩などを通じて、江戸時代の板橋に思いをめぐらしてみたいはいかががでしょうか。

## 【問い合わせ先】

板橋区教育委員会生涯学習課文化財係 TEL03-3579-2636  
板橋区立郷土資料館 TEL03-5998-0081